

片岡松十郎・片岡千壽・片岡千次郎

第二回あべの歌舞伎「晴の会」における片岡松十郎・片岡千壽・片岡千次郎の成果

(かたおかまつじゅうろう・かたおかせんじゅ・かたおかせんじろう/だいにかいあべのかぶき「そらのかい」におけるかたおかまつじゅうろう・かたおかせんじゅ・かたおかせんじろうのせい)

(第1部門：伝統芸能・邦舞・邦楽)

上方歌舞伎の若き担い手である片岡松十郎、片岡千壽、片岡千次郎を軸に、一昨年旗揚げされた「晴の会」。昨夏は片岡秀太郎監修、山村友五郎演出・振付による「伊勢参宮神乃賑」を上演した。上方落語「東の旅」を題材にした上方色豊かな新作で、伊勢参りに向かう喜六と清八、遊女おこんや煮売屋の婆などを、主軸の三人らが力演。粗削りな内容ながら、観客を惹きつける存在感や表現力を見せ、成長ぶりを印象付けた。今後のさらなる活躍を期待し、奨励賞を贈る。



【略歴】三人は、ともに松竹・上方歌舞伎塾第一期生で平成11年3月大阪松竹座の『仮名手本忠臣蔵』で初舞台。片岡松十郎は、平成11年12月に片岡仁左衛門へ入門。平成24年12月南座の『仮名手本忠臣蔵』で名題昇進。精悍さと誠実さが持ち味の立役。片岡千壽は、平成11年12月に片岡秀太郎へ入門。平成24年12月南座の『廓文章』で名題昇進。芝居心とセンスの良さを感じさせる女方。片岡千次郎は、平成11年12月に片岡我當へ入門。平成25年12月南座の『巖島招檜扇』で名題昇進。安定した確かな演技力を持つ実力派で立役も女方もこなす。平成27年「晴の会（そらのかい）」を結成し、近鉄アート館にて第一回あべの歌舞伎公演を行う。

大阪女優の会

「あたしの話と、裸足のあたし」の舞台成果

(おおさかじょゆうのかい/「あたしのはなしと、はだしのあたし」のぶたいせい)

(第2部門：現代演劇・大衆芸能)

関西を拠点とする実力派の女優らが自発的に続けてきた戦争と平和を考える大阪女優の会の公演。14回目となった「あたしの話と、裸足のあたし」は構成・演出に樋口ミユを迎え、充実した朗読劇となった。とりわけすばらしい試みだったのが、90歳を超えてなお舞台上立つ河東けいを筆頭としたこれまでのメンバーに加え、平成生まれの10、20代の若手も参加したこと。河東が実際に体験した戦争の話を脚本に盛り込み、観客のみならず出演者にも戦争の悲惨さを伝える貴重な場となった。



【略歴】2003年アメリカによるイラク攻撃が始まり、多くの演劇人が反対の声をあげました。これを機に「大阪女優の会」を立ち上げ、戦争を風化させないためにも、「演劇は非戦の力」として毎年“あきらめない、夏”の公演を続けています。演劇の命は言葉です。言葉の対極に暴力があります。私達はあらゆる暴力を否定、平和を願う演劇人の集まりです。様々なジャンル、所属団体の枠を超え集まった演劇人が、創造の力と、表現の質を高め15年目を迎えます。

地主薫バレエ団 奥村唯 「人魚姫」の演技

(じめしかおるばれえだん おくむらゆい/「にんぎょひめ」のえんぎ)

(第3部門：洋舞・洋楽)

地主薫が選曲から行い、オリジナルで創った全3幕のバレエ「人魚姫」の主演・人魚姫を踊った。確かなバレエ技術に基づいた上で、繊細さと透明感を持った素直でていねいな踊りは、今後、数々の古典バレエ作品を踊り、観客の心に響かせるバレリーナとしての成長が期待できるもの。その持ち味を活かしつつ、様々な作品に挑戦してのさらなる飛躍が楽しみだ。



【略歴】2歳よりバレエを初め、平成18年地主薫バレエ団に入団。平成19年全国舞踊コンクールパ・ド・ドゥ部 第3位。平成22年ソウル国際バレエコンクール Artistic Director 賞。平成23年京都バレエコンクール 第2位。平成25年モスクワ国際バレエコンクール DIPLOMA 取得。平成27年 THE DANCE TIMES でベストダンサーに選ばれる。韓国の李元国バレエ団「くるみ割り人形」にてゲストプリンシパルを務める。地主薫バレエ団では、「シンデレラ」「くるみ割り人形」「ワルプルギスの夜」などの主演を踊る。

関西歌劇団

関西歌劇団 第98回定期公演「皇帝ティートの慈悲」の成果

(かんさいかげきだん/かんさいかげきだん だい98かいていきこうえん「こうていていとーとのじひ」のせいか)

(第3部門：洋舞・洋楽)

モーツァルトの最後のオペラで愛と裏切りのシリアスな物語だが、小ぶりの円形劇場の空間で四方から観客の視線を浴びる演出が新鮮だった。さらに客席も活用して演者の魅力を身近に感じさせながら、役柄の心の葛藤を高揚した重唱とチェンバロを生かしたバロック調で表現して、オペラの上演形態に新しい可能性を開く画期的な公演だった。



【略歴】昭和24年春、指揮者・朝比奈隆を中心に関西の音楽家が集まり、旗揚げ公演《椿姫》で発足。以来、約70年の歴史を持つオペラ団体であり、多数の邦人作品の初演や海外の劇場との共同制作にも力を注ぎ、定期公演は平成30年には第100回を迎える。平成15年度文化庁芸術祭優秀賞を受賞。平成22年度大阪文化祭賞奨励賞を受賞。

※写真はデジタルデータもございます。ご入用の際はE-mailでお送りいたしますので、下記事務局まで電話またはE-mailにてご連絡ください。

■この件に関するお問い合わせ先■

【大阪文化祭賞事務局】

公益財団法人関西・大阪21世紀協会 文化事業部 城本、今沢

e-mail / shiromotot@osaka21.or.jp

TEL/06-7507-2002 FAX/06-7507-5945